

## 先進医療会議からの指摘事項に対する回答

先進医療技術名：高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術

令和4年9月26日

所属・氏名：霞ヶ浦医療センター

西田 正人

以下の点について検討し、ご回答をお願いいたします。

子宮腺筋症の妊孕性温存を考える会において、「各治療法(特に高周波切除器を用いた場合と用いない場合)の優劣などを比較検討することとされている」と記載がございますが、どのように比較検討が行われるのかが分かりません。具体的にどのような形で(研究デザインで)、登録症例数はどれくらいを見込んで、高周波切除器を用いた技術と用いない技術の比較検討が行われるのか、につきましてご説明願います。

## 【回答】

「子宮腺筋症の妊孕性温存を考える会」は2回開催され、基調講演が行われ、会の方針が議論された後にコロナ禍のため、2年間休会されています。従って、具体的な登録作業は未だ始まっていません。

私は会のメンバーとして今後の会の運営に携わっていく立場にありますので、今後の方針に関する私の考えを述べさせていただきます。

まずは、子宮腺筋症と臨床診断された症例の登録をおこないます。この中から、治療をおこなった症例と治療がおこなわれなかった症例に分けます。多くの場合、既婚であれば妊娠を希望し、未婚であれば月経痛や過多月経といった症状の緩和が治療方針となります。治療せずに経過を観察するのは、子宮腺筋症でありながら、自然妊娠する例もあるためです。

次いで、何らかの治療的介入を行った症例は不妊治療、薬物療法、保存的手術療法に分けられます。

保存的手術療法の選択例が何例になるかは現在まだ不明ですが、当院の成績からの推測では年間100例前後になるのではないかと考えられます。

この症例の術式を、高周波切除器を用いた症例とそれ以外の症例に分け、予後と比較することになります。差があるかないか、どの程度の差が生じるかは未知ですので、必要症例数は現在設定できません。登録後の後層別化によって、比較する予定です。

以上、ご質問に対する回答とさせていただきます。